

保護者・地域の皆様へ

令和5年度 赤穂市立赤穂中学校

学校評価・学校関係者評価の公表について

すでに実施しております「生徒アンケート」「保護者アンケート」の結果・分析を資料として、来年度に向けての具体的な取組や改善策を検討するとともに、その内容を「学校運営協議会委員」の方々にご覧いただき、学校が自分たちの教育活動を正しく評価し、適切な改善を行おうとしているかについて、さまざまなご意見をうかがいました。

今回は、それを「学校評価・学校関係者評価」として集約したものを、保護者・地域の皆様に、ホームページ上にて公表いたします。

来年度へ向け、積極的なタブレット端末活用を含めてICT教育を進めていくこと、人と人とのふれあいを大切にした教育活動に取り組み、学校行事・地域行事の開催、不登校対策など、浮き彫りになっている課題についても、取り組んで参ります。

令和6年3月25日

赤穂市立赤穂中学校
校長 猪谷 和寛

令和5年度 学校評価・学校関係者評価

1 本年度の学校経営方針・重点目標

【学校教育目標】	【目指す生徒像】	【目指す教師像】
<p>『志を持ち夢の実現に挑戦する、自立する人づくり』</p> <p>～赤穂中学校の誇りを胸に、感謝の心と、思いやりのあふれる学校をめざして～</p>	<p>校訓 『 明けく・浄く・直く 』</p> <p>【明けく】公明正大で、切磋琢磨して学習に真剣に取り組む生徒 【浄く】心や行いがきれいできれい、やましいところがない生徒 【直く】素直で誠実な生徒</p>	<p>I 人権感覚を磨き、感性を高め、生徒一人ひとりを大切に作る教職員 II わかる授業と学力向上への工夫と改善に努める教職員 III 生徒の気持ちに寄り添い、成長や発達を支える教職員 IV 生徒の良さや可能性を伸ばし、自己指導能力を育てる教職員 V 自分を磨き、高め、深め、教育のプロとして自己変革ができる教職員 VI PDCAサイクルによる全教育活動の検証・評価と勤務時間の適正化を推進する教職員</p>

2 自己評価結果(A～D) A:よくあてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない

◆学習指導

【本年度の学校経営基本方針】

○「確かな学力」の育成を図るため「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた工夫と改善に努め、授業公開や研究協議などにより、教育活動の質の向上をめざす。また、学力の把握に基づいて、つまずきの解消や系統性を重視した指導を進める。

NO	評価項目	A B C D			
		A	B	C	D
1	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を促進している。	6 22%	20 74%	1 4%	0 0%
2	学力の把握に基づいたつまずきの解消や系統性を重視した指導の充実を行っている。	4 15%	22 81%	1 4%	0 0%
3	ICT機器を活用した授業展開と学習形態の研究を行っている。	7 26%	12 44%	8 30%	0 0%
4	授業公開（相互参観・研究協議）と日常的な意見交換による授業力の向上を行っている。	2 7%	14 52%	11 41%	0 0%
5	「学びに向かう力」を育成する指導方法の研究を行っている。	2 7%	16 59%	9 33%	0 0%
6	<GIGAスクール構想>教職員のスキルアップと効果的な授業展開の研究を行っている。	0 0%	16 59%	10 37%	1 4%
7	指導と評価の一体化の観点別評価を行っている。	11 41%	16 59%	0 0%	0 0%
8	わかる授業と学力向上への工夫と改善に努めている。	14 52%	12 44%	1 4%	0 0%
9	生徒の良さや可能性を伸ばし、自己指導能力を育てる取組を行っている。	8 30%	15 56%	4 15%	0 0%
10	自分を磨き、高め、深め、教育のプロとして自己変革ができる取組を行っている。	4 15%	16 62%	6 23%	0 0%

分析と改善の方策

◆学習指導

<成果>

- ・「わかる授業」を意識した授業づくりを行うことについて成果が現れてきている。また、校内授業研修や授業校内により、教育活動の質の向上に取り組めた。
- ・ICT機器を積極的に利用した授業が増えてきている。また、ICTを利用することで、生徒自身が学習に対して前向きに捉えることができている傾向が見られる。

<課題>

- ・ICTの活用については、利用するだけでは「確かな学力」の育成に必ずしも直結しているとは言えないと考える職員が多く、学校全体として「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた活用方法の研修の機会を設ける必要がある。
- ・ICT機器を活用した授業の充実であったり、ICT機器を活用した授業展開と学習形態の研究を行う必要がある。また、機器の活用能力に対して、職員間の差を少しでも埋めるためにも、教職員のICT機器に関するスキルアップのための研修が必要である。
- ・「公開授業や、日常的な意見交換による授業力の向上」の項目については、「あまりあてはまらない」が41%と高くなっている。授業の空き時間の関係や、校務多忙もあるが、お互いの授業を参観し合う機会を持つことができる心のゆとりをもつことが課題である。
- ・ICTの活用方法と平行して、生徒らに情報モラルや情報リテラシーを充実させることが、今以上に求められている。

<改善の方策>

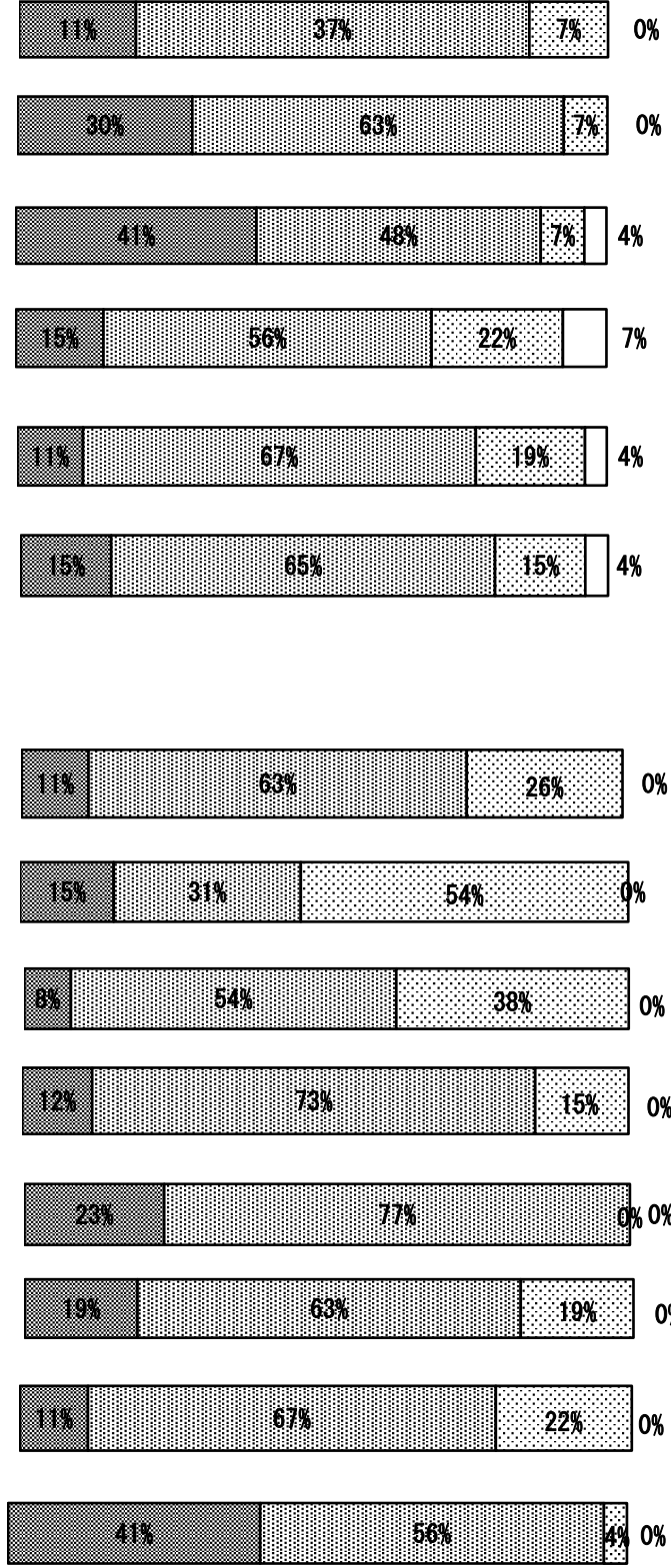
- ・授業改善等の意識はするが、具体的な方策がわからない職員もいる。研究授業であれば校内で気軽にできるが、ICTの活用やGIGAスクール構想に則った活用方法等は、学校として校内研修等を充実させていきたい。
- ・ハーフサイズ授業を行う中で、個に応じた習熟度別の授業によって、確かな学力の定着を図りたい。クローズドブックを活用し、個に応じた学習について考えていく必要がある。また、基礎基本の定着させるために、朝学習で小テスト等を計画的に実施していく。
- ・空き時間に少しでも授業を参観することができる環境づくりや共通理解を図りたい。

◆生徒指導

【本年度の学校経営基本方針】

- 個性を認め合い、支え合う共感的な人間関係のある学級づくりを推進する中で、主体的に考え、判断し、行動する生徒の育成を図る。
- 様々な視点から生徒理解を深め、心に寄り添った支援を通して、生徒に自己指導能力を身につけさせる。また、課題のある生徒に対しては教職員のチームワーク、保護者や関係機関との協働・連携によって生徒の発達を支え、課題予防に努める。
- 報告、連絡、相談を徹底することで課題に対して課題に対して迅速かつ適切に対応する学校組織の確立を目指す。

11	生徒の心に寄り添い、成長や発達を支える生徒指導を行っている。	15	10	2	0
		11%	37%	7%	0%
12	生徒の個性の発見とよさや可能性を伸ばし、自己指導能力を育てる生徒指導を行っている。	8	17	2	0
		30%	63%	7%	0%
13	教職員のチームワーク、保護者や関係機関との協働・連携による課題解決を行っている。	11	13	2	1
		41%	48%	7%	4%
14	不登校（傾向）生徒（保護者）が社会的に自立できるよう支援している。	4	15	6	2
		15%	56%	22%	7%
15	適応教室（SSR）の利用に関する教職員の共通理解と積極的な学習支援を行っている。	3	18	5	1
		11%	67%	19%	4%
16	校長講話、学校だより等を生かす学年・学級活動を行っている。	4	17	4	1
		15%	65%	15%	4%
17	生徒の基本的な生活習慣は向上している。	-	-	-	-
	①授業の態度・意欲	3	17	7	0
		11%	63%	26%	0%
	②あいさつ（登校時・下校時・授業前後等）	4	8	14	0
		15%	31%	54%	0%
	③登下校のマナー	2	14	10	0
		8%	54%	38%	0%
	④命を守るヘルメットの着用	3	19	4	0
		12%	73%	15%	0%
	⑤時間が守られている	6	20	0	0
23%		77%	0%	0%	
⑥集会（学年・全校・行事）の集合・整列・私語・態度が取り組まれている	5	17	5	0	
	19%	63%	19%	0%	
⑦清掃への取り組みができています。	3	18	6	0	
	11%	67%	22%	0%	
18	報告、連絡、相談による学級組織力の向上に努めている。	11	15	1	0
		41%	56%	4%	0%



分析と改善の方策

◆生徒指導

<成果>

- ・教職員間の関係が良好であるため、生徒指導について相談したり連携したりと対応しやすい職場環境となっている。報・連・相がしっかりとできているため、相談後の対応も迅速に行えている。
- ・生徒一人ひとりの対話を大切にしたい職員が多い。そのため、生徒の心に寄り添った指導ができています。保護者対応も同様である。
- ・個性を認め合い支え合う共感的な人間関係のある学級づくりを通して主体的に考え、判断し行動する生徒の育成については効果が出ている。
- ・SSRやふれあい教室、タブレットによる授業配信などを活用した不登校生徒への支援に一定の効果が出ている。

<課題>

- ・登下校のマナーについて、地域住民から苦情を受ける事もあった。
- ・自分からあいさつをする生徒が少ない。また、あいさつをすることの意義を踏まえて取り組めるかが課題である。
- ・不登校傾向生徒の個性を認め、それぞれの状況に応じて対応していくことが課題である。不登校生徒や保護者からの要望は多様化しているが、その中で、学校が対応できることとそうでないことがあることを理解してもらえよう努力する必要がある。
- ・不登校生徒やSSRを利用する生徒に対する支援について、職員全体で共通認識を深める必要がある。

<改善の方策>

- ・不登校生徒への対応は、他機関と連携しながら、対応する必要がある。また、不登校担当職員を中心に個に寄り添った指導をしていきたい。また、社会的な自立を目指して柔軟な対応をしていきたい。
- ・小さなSOSを見逃さないよう学年や学校全体の報告・連絡・相談の徹底が必要である。
- ・SSWやSC等と連携しつつ継続した指導を行う。
- ・生徒会活動を通して、あいさつや清掃の大切さについて考えさせ、自分から行うあいさつや清掃にしていける必要がある。

◆ 特別活動 ◆ 人権教育

【本年度の学校経営の基本方針】

- 生徒会活動を中心とする自主的活動や仲間づくりへの適切な支援により、感謝の心や思いやりの心を育み、支え合い高め合う集団を目指す。
- 人権に関する知的理解と人権感覚の涵養を基盤に、自分の大切さと共に他の人の大切さを認めることができる生徒を育成し、すべての生徒が安心して学習や集団活動ができる学校環境[人・物・心]をつくる。

19	JRC（青少年赤十字）態度目標『気づき、考え、実行する』の具体的活動の実践を行っている。	5	17	5	0	19%	63%	19%	0%
20	奉仕、福祉、ボランティア活動などによる地域への貢献を行っている。	6	15	5	0	23%	58%	19%	0%
21	地域人材・資源を生かした多様な教育活動の創造を行っている。	3	14	8	2	11%	52%	30%	7%
22	オープンスクールの拡充と参観者休憩・談話室の活用を行っている。	2	17	5	2	8%	65%	19%	8%
23	ボランティア活動への理解と意欲の向上に努めている。	5	18	3	1	19%	67%	11%	4%
24	コミュニティスクールによる「地域とともにある学校づくり」を推進している。	1	16	8	1	4%	62%	31%	4%
25	人権尊重の精神に基づく、いじめや暴力、差別を許さない学校文化の定着を行っている。	12	13	1	0	46%	50%	4%	0%
26	生徒が活躍できる場を創り、一人一人が大切にされる居場所の確保を行っている。	12	13	2	0	44%	48%	7%	0%
27	「道徳」の内容充実と人権教育の視点を重視した授業展開の研究を行っている。	7	16	4	0	26%	59%	15%	0%
28	学級経営や生徒指導と相互に関連する「人権教育」「特別の教科 道徳」の在り方や評価の研究を行っている。	3	19	5	0	11%	70%	19%	0%

分析と改善の方策

◆ 特別活動 ◆ 人権教育

< 成果 >

- ・生徒一人ひとりの居場所づくりや、いじめを許さない学校の雰囲気づくりなどによって、学校が安らげる場所と感じている生徒が多くなっている。

- ・道徳による授業を通して、心の涵養を促し、学校生活における様々な場面において、プラスになっている。
- ・研究推進の各部会等の話し合いを持つことで、スムーズに取り組を進めることができた(学校行事等)。
- ・JRCの態度目標を意識して学校生活が送れた生徒が多い。

< 課題 >

- ・更にJRC活動やボランティア活動の活性化を図る必要がある。
- ・学校運営協議会やPTAとのつながりを大切にしながら、地域人材・地域資源を生かした教育活動を全職員で取り組んでいく必要がある。また、「地域とともにある学校」について教職員の理解を深める必要がある。
- ・特定の専門部のみが地域との関わりを行っており、ボランティアを募っても思うように集まらないことがあった。JRC活動に則ったボランティア精神の向上が望まれる。

< 改善の方策 >

- ・研究推進の各部会を適切な時期にもち当面する課題について、話し合う機会を設けていきたい。
- ・地域人材・資源を生かした教育活動を進める必要がある。
- ・具体的に赤穂中学校として、何に力点を置いた活動に取り組んでいくのかの指針が必要である。

◆ 特別支援教育の充実

【本年度の】

- 特別支援教育の充実を図り、すべての生徒が認め合い、生き生きと学べる環境をつくる。個別の教育支援計画・個別の指導計画の有効活用により、切れ目のない一貫した支援に努める。

29	特別支援教育の充実を図り、すべての生徒が認め合い、安心して過ごせる学校づくりを推進している。	5	17	4	0	19%	65%	15%	0%
30	個性を認め合い、支え合う共感的な人間関係のある学級づくりの推進を行っている。	10	15	2	0	37%	56%	7%	0%
31	生徒会を中心とする自主的活動や集団活動への積極的な支援により、感謝の心や思いやりの心を育み、支え合い高め合う集団づくりの推進を行っている。	11	15	1	0	41%	56%	4%	0%
32	日々の積み上げが必要な係活動や清掃活動への取組と指導の強化に努めている。	8	17	2	0	30%	63%	7%	0%
33	特別支援学級の生徒が、生き生きと活動できる学校環境の改善を行っている。	6	15	6	0	22%	56%	22%	0%
34	個別の支援計画、個別の指導計画の有効活用による切れ目のない一貫した支援を行っている。	2	17	8	0	7%	63%	30%	0%

分析と改善の方策

◆ 特別支援教育の充実

< 成果 >

- ・特別支援学級担任を中心として、充実した授業を行い、個に応じた対応ができています。
- ・生徒や保護者の思いを聞きながら、自己実現を目指して、力をつける授業や学校生活を送ることができている。

< 課題 >

- ・個別の支援計画や指導計画を確実に引き継ぎ、生徒にとって有効に活用できるようにする必要があります。
- ・保護者と授業の内容や自立活動、進路について相互理解を深める場を持つことが必要である。

< 改善の方策 >

- ・各担任が生徒の実態を把握し、保護者との連絡を密にし連携を深める中で、適切な支援を行いたい。
- ・特別支援学級の生徒一人ひとりの個別の支援計画・指導計画を教職員で共有するとともに、それを活用していく体制を整える。

◆ 学校・家庭・地域社会の連携を深め、開かれた学校づくりの推進 【本年度の学校経営の基本方針】 ○福祉活動やJRC活動、地域行事への参加など、地域に貢献し、活躍する生徒の育成を目指す。また、学校情報の発信、地域団体との連携、オープンスクールの拡充、地域人材の活用など、地域に根ざした教育活動を推進する。					
35	学校だより、学校ホームページ等による学校情報の発信を行っている。	7	15	4	0
		27%	58%	15%	0%
36	学校を身近に感じ、学校の息遣いが伝わる記事の発信を行っている。	7	16	4	0
		26%	59%	15%	0%
37	保護者・地域宛の発信文書の「見やすく わかりやすい」内容と紙面の工夫改善を行っている。	7	18	1	0
		27%	69%	4%	0%
38	保護者宛文書の学年間統一様式による共有化の推進を行っている。	5	16	5	0
		19%	62%	19%	0%
39	学校メールシステムによる、確実な連絡体制の確立を行っている。	11	15	0	0
		42%	58%	0%	0%
40	公私の区別や場面に応じた適切な言葉遣いを行っている。	9	14	2	0
		36%	56%	8%	0%

分析と改善の方策	
◆ 学校・家庭・地域社会の連携を深め、開かれた学校づくりの推進	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校連絡メールシステムや連絡アプリによる確実な連絡体制の確立ができています。(急な連絡の変更や校外学習時の様子等にも活用ができています) ・学校便りや学級通信、メールなど場面に合わせて適切に配布や活用がなされている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールの確認をしていない保護者や、配布文書が生徒から保護者にわたっていない家庭がみられる。 ・連絡アプリのさらなる活用と、学校ホームページの更新と充実を図る必要がある。 ・コロナ禍を経て、地域の行事に進んで参加しようとする生徒が少なくなっている。 <p><改善の方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉活動や地域行事などへの参加を増やすことで生徒の心の豊かさを育んでいきたい。 ・学校からのお知らせ等をPDF形式等でペーパーレス化して配信することも検討していきたい。 ・保護者宛文書の統一形式による共有化を進めたい。

◆ 学校・教職員					
41	規律正しく、温かく、父性と母性のバランスのとれた学校生活環境の構築に努めている。	8	16	2	0
		31%	62%	8%	0%
42	施設・設備の異常箇所の早期発見と早期対応（破損を放置しない営繕の実施）を行っている。	7	14	6	0
		26%	52%	22%	0%
43	放課後の教室清掃と整理整頓の実践（整然とした教室環境の維持）に努めている。	8	15	4	0
		30%	56%	15%	0%
44	人権感覚を磨き、感性を高め、生徒一人一人を大切にしている。	12	14	1	0
		44%	52%	4%	0%
45	生徒の気持ちに寄り添い、成長や発達を支える取組を行っている。	15	11	1	0
		56%	41%	4%	0%
46	PDCAサイクルによる全教育活動の検証・評価と勤務時間の適正化を推進する取組を行っている。	5	16	4	2
		19%	59%	15%	7%
47	志を持ち夢の実現に挑戦する、自立する人づくりに取り組んでいる。	5	19	3	0
		19%	70%	11%	0%

分析と改善の方策	
◆ 教職員の資質向上と人権意識向上の推進	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの気持ちに寄り添い、成長や発達を支える取組ができています。 ・学年・学校がチームとして動いている。また、生徒のことなど職員室で話しやすい雰囲気がある。 ・職員の帰宅時間が全体的に早くなり、働き方に対する意識が変わってきている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルによる検証・評価によって業務改善や勤務時間の適正化を継続して推進する必要がある。 ・校務分掌が一人の担当者に集中していることや引き継ぎが不確定なことがある。 ・教室環境を整えることと、施設・設備の異常箇所を発見し、適宜営繕を行っていくひつようがある。 <p><改善の方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の気持ちに寄り添い、成長や発達を支える取組について検証しよりよいものとしていきたい ・職員室での生徒についての話題が、肯定的な評価や支援の方策についてなど前向きなものとなるようにしていきたい。 ・教育活動の検証・評価と勤務時間の適正化をしっかりと行い、校務分掌の見直しや偏りが無い職場環境の構築を目指す。

学校関係者(学校運営協議会)評価

(A)自己評価の結果について

- ・学習面、生徒指導面でも、一人ひとりを大切にした指導が生徒・保護者アンケートの結果に出ており概ね適切な自己評価であると思う。一方で、生徒評価と比べると、保護者評価の値は低い。その背景には、家庭でのコミュニケーション不足も少なからず影響しているように感じられる。
- ・教職員の評価については、大半がB評価となり、自信がないように感じられる。また、地域の方と個人的、または地域のコミュニティに参加するなどしながら、地域とのコミュニケーションの強化が必要であると思う。

(B)分析と改善策について

- ・成果が現れている項目に満足することなく、次の一歩が考えられている。
- ・ICTの活用について一長一短があるように感じる。職員間の活用能力差を埋める意味でも、しっかりと研修を行い、更に上手くICTを活かした授業づくりを推進して欲しい。また、ICT機器を使う上でも、そこにはモラルがあり、人と人の結びつきがあることを忘れないようにしながら実践して欲しい。
- ・人的資源が限られ少ない学校現場での努力を垣間見ることができ、よく考えられていると思う。
- ・生徒指導については、各要望が多様化している時代になっているが、非常に重要な役割を担っていると思う。

(C)課題と提言について

- ・どの課題においても、職員間の共通認識、共通理解、統一化など教職員、学校全体が同じ方向を向いてひとつになることが必要ではないか。行事等が増えてきたが、部活動が地域移行に向かっていく中、生徒たちは何に夢をもち希望をもつのか今後心配な面がある。これからも魅力ある学校づくりを目指して欲しい。
- ・生徒会活動の活性化、PTA活動の活性化……。相手の立場に立って考える。これは、大人も子供も同じだと思う。今後の学校運営については、コミュニティの中で協議し進めて行く姿勢は素晴らしいが、コロナのパンデミック後、人と人との交流が希薄になり、それ以前の状態に戻すことが難しくなっている。しかし、本年正月に起きた能登半島地震で思い知らされたように、災害時には様々の方の助けが必要となることが今後たくさんある。それを思えば、昨今の風潮はかなり危険で、日頃から地域の方々との交流(顔見知り)がなくなると、いざというときの対応が後手になることが多くなる気がする。今後は、子ども達との交流の場を含めて、全世代(の代表等)で交流していくことが大切である。今が踏ん張りどころだと感じている。